

実船実水訓練

## 訓練7 運航可否判断

07-01 模擬的な運航の可否判断の実施と伝達



## 訓練7 運航可否判断

訓練の対象者 本項目の訓練対象者は、船長候補です。



船長候補

訓練の概要 訓練内容は、下記です。

07-01 模擬的な運航可否判断の実施と伝達

- ① 気象・水象の確認
- ② 模擬的な運航の可否判断の実施と伝達

訓練の振り返り 訓練が全て終わりましたら、振り返りをしましょう。  
理解不足や不安な点があれば指導者に確認しましょう。



船長候補

当日の気象・水象を確認し、安全管理規程の「運航の可否判断」に従って、運航するかどうか、模擬的に判断してみます。

ここでは模擬的に運航の可否判断を実施し、その結果を船長や安全統括管理者、船舶所有者に共有し、意見をもらおう。  
繰り返し訓練することで、運航の可否を的確に判断できるようになる。



ベテラン船長

## 07-01 模擬的な運航可否判断の実施と伝達

### ① 気象・水象の確認

訓練1「気象・水象及び航行する水域における危険箇所」の内容を思い出し、運航水域の気象・水象情報を調べましょう。



### ② 模擬的な運航の可否判断の実施と伝達

訓練3「運航基準」の内容を思い出し、模擬的に運航の可否判断を実施しましょう。

発航中止等の判断を行った場合に運航管理者等へ正確に伝えることを想定し、判断の内容について、収集した気象水象情報とともに判断理由をつけて説明しましょう。

指導者は、自身が判断した内容と比較して、判断や伝達にあたって不足している点などを訓練者にフィードバックします。

**運航の可否判断の重要性を再度確認しましょう。**

#### ▶▶▶ 安全管理規程は全てにおいて基本となることを念頭に再度確認しましょう。

旅客船による海難事故は、様々な原因がありますが、安全管理規程を遵守できていなかったことに起因している(天候が悪化することが予測できたのにも関わらず、出航してしまった判断ミスなど)事故があります。

こうした事故を絶対に起こさないよう、安全管理規程を確認し、各運航基準に従い、発航前の風速や波高、視程を確認することに加え、航行中に遭遇する気象・水象の情報を発航前に確認、予測し、運航基準に抵触するおそれがあれば、必ず発航を中止する判断をします。



記録  
しよう

## 07-01 模擬的な運航可否判断の訓練内容を記録しよう。

- 当日の気象、水象情報を基にした模擬的な運航可否判断で気がついた点を記録しよう。

例) 運航水域の気象、水象情報の観測が難しい、発航の可否判断基準では可能だったが、ベテラン船長の判断は不可であった、など

これで訓練07-01は終了です。